５（１）研究の重点目標

市の本年度の指導の重点

◎　学ぶ楽しさを実感し、真理を求め、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進
◎　命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進
◎　体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

三教研の研究テーマ（第 16 期）

仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業

教育課程のねらい

・豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成
・自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成
・基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実
・国際理解を深め、わが国の文化と伝統を尊重する態度の育成

研究主題

「仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」（５年目）

◆『仲間とかかわりながら』
　ここでいう「仲間」とは、共に学びあう学級の子どもたちだけでなく、学びを通してかかわる人たちもすべて含めたものを意味する。よりよい社会づくりへの参画のためには、仲間とかかわりあうことが礎となるべきであると考える。そのために、
・追究において、学級の「仲間」とともに様々な人・もの・こととかかわりながら、仲間と考えを認め合い、高め合う場を重ねていくことで、協働して考えを深める子どもの姿を求める。
・学習の対象となるすべての人とのかかわりを深め、「仲間」として意識することで、問題に対する切実感を高め、協働してより高い次元の学びへと導く。

◆『よりよい社会づくり』…『よりよい社会』とは、そこにかかわる人にとって、幸せを感じられる社会（持続可能な社会）である。よりよい社会づくりのために、
・目の前やこれから起こりうる問題を解決するために、様々な方法で追究し、仲間と互いに協働する中で、自分の考えを深め、問題の解決に迫る子どもの姿を求める。
・自分の考えと仲間の考えのよさをそれぞれ生かしながら、よりよい解決をめざす子どもの姿を求める。
→問題の解決が見えた先にあるのが『よりよい社会』である。

◆『参画をめざす』…『よりよい社会づくり』へ「参画する」という行動化だけをめざすのではなく、行動化への意識や意欲を高めたり、きっかけを作ったりする「参画していこうとする」姿や、社会とのかかわりに「思いをはせる」姿もめざす。そのために求められる資質や能力は、
・資質…確かな社会認識、価値判断、行動力
・能力…コミュニケーション能力
→こうした資質や能力を培うことで、変化の大きい今日の社会において、現在だけなく、未来においても、子どもが主体的に社会にかかわる姿勢、つまり、『参画をめざす』姿が見られるようになると考える。

【本年度の重点】

「主体的に仲間とかかわりあうことを通して、よりよい社会づくりとはどのようなものかを考え、参画する姿の実現」

子どもが、国内外や自分の住む地域に山積する課題に目を向け、仲間とのかかわりの中で、より多くの人が幸せになれる社会づくり（持続可能な社会づくり）とはどのような姿であるか考えようとする社会科の授業を実現したい。その上で、よりよい社会をつくっていくためには何が必要かを仲間とのかかわりの中で考え、自ら判断し、参画を実現しようとする姿を社会科の授業で目指したい。

昨年度までの研究において、仲間と出合うことで社会認識を深めることができることは明らかになった。しかし、その仲間との出合いが、真に子供たちの「出合いたい・学びたい」という思いから実現したものであるか､コロナ禍でどのように出合いを実現するかについてはさらに研究を進める必要がある。そこで、今年度は学校内外の仲間との出合いに子供たち自身が必然性を抱くことができるような社会科の授業の実現を目指したいと考える。必然性を抱いた子供たちは、自ら仲間とかかわろうとし、聞き取り調査や議論を主体的に行うことができるようになるであろう。この姿が、学びの連続性を生み出し、不確かな時代を生き抜く原動力となる。そして、よりよい社会づくりを目指し、参画する姿につながるのではないだろうか。本年度は、この姿を重視した単元構成を重点に、研究に取り組みたい。

◎　仲間との出合いに必然性を感じ、よりよい社会づくりに参画するために「学びたい」と歩みだす子どもを育てるためには、どんな教材で、どんな単元構成を立てる必要があるのか。